

2019年6月1日
JICA 中国事務所

JICA 海外協力隊

赴任前留意事項

(長期隊員用)

中華人民共和国



※本資料に記載の情報は、作成日現在のものであり、その後状況が変化している場合があります。記載内容については正確を期していますが、万が一誤りがあった場合には JICA は責任を負いかねますのでご了承ください。

※本資料は JICA 海外協力隊を対象としたものであり、その他の方には該当しない情報も含まれている可能性があります。

目次



1. 赴任時の携行荷物について
 - (1) 赴任時に必ず持参するもの
 - (2) 日本から持参するとよいもの
 - (3) その他留意事項
2. 別送荷物について
 - (1) アナカン・郵送等の利用について
 - (2) 通関情報について
3. 通信状況について
 - (1) パソコンの普及状況
 - (2) 携帯電話の普及状況
4. 現金の持ち込み等について
 - (1) 現金持込にかかる注意
 - (2) 両替状況
 - (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について
5. 治安状況について（JICAの安全対策については、協力隊ハンドブックを参照）
6. 交通事情について
7. 医療事情について
8. 蚊帳について
9. 任国での運転について
10. お問い合わせ
11. その他

1. 赴任時の携行荷物について

(1) 赴任時に必ず持参するもの

☆中国居留登記用健康診断書（レントゲン写真含む）

各任地に到着直後の居留登記の際に必要となります。

※居留登記とは中国に長期滞在する外国人に対して課せられる在留登録のことです。これにより長期滞在が可能となります。

☆証明写真 4枚程度（33mm×48mm） 居留登記の際に必要となります。

☆正装 到着翌日より表敬訪問・挨拶等予定していますので郵送せずに携行してください。

☆新総合ハンドブック（共済会ハンドブック）

☆予防接種記録

☆JICA 海外協力隊ハンドブック

☆合意書

(2) 日本から持参するとよいもの

☆電子辞書

日本で販売されているもののほうが中国で販売されているものより、日本人中国語学習者にとっては実用的です。日本からの持参をお勧めします。

☆パソコン・プリンター・デジタルカメラ・ビデオカメラ等

輸入規制品となっており、各電子機器を2個以上持ち込む場合は、通関手続が必要です。引き取りに時間と経費が必要となりますので、日本から送付の国際小包等の中に入れて、赴任時に手荷物として携行してください。

☆ちょっとした手土産や家族・故郷の写真

会話がはずみます

☆マスク

当国は大気汚染が深刻な問題となっています。現地でも購入できますが、気になる方は日本製を持参ください。

ワンポイント情報 ～プラグと電圧～



中国のプラグの形は3又タイプと2又タイプが一般的。電圧は220V。2又タイプは日本のプラグと同じなので、220Vの電圧にさえ対応していれば、日本から持参したものをそのまま差込むことができます。変圧器は現地で安価で購入できます。

(3) その他留意事項

- 中国国内便で航空機に預け入れることのできる荷物は**20kg まで**となっています。任地赴任時の預け入れ荷物が20kgを超える場合は、北京から郵送するか、超過料金を支払い預け入れることになります（郵送料・超過料金は自己負担となります）。機内持ち込み手荷物は、規定上5kgまでとされていますが厳密には運用されていないようです。
- ポルノ雑誌等のわいせつ物は絶対に持ち込まないでください。



2. 別送荷物について

(1) アナカン・郵送等の利用について

日本からの荷物の送付には国際小包郵便（航空便/SAL 便/船便）か EMS をお勧めします。なお、個人宛小包の引き取りは本人でなければできない所が多く、郵便局での保管一定期間を超えると日割りで保管料金が発生します。送付先は配属先宛とし着任時期を見込んで送付してください。（各配属先の住所は、JICA 中国事務所企画調査員までお問い合わせください）。現地語学訓練がある隊員は、中国赴任後1ヵ月後を目処に届くよう送付ください。

(2) 通関情報について

携行してきた荷物の空港での通関については、開けて中をチェックされることもあります。段ボール箱はスーツケースに比べて開けられる確率が高いようです。また、多数同じ家電製品等がある場合や大型一眼レフカメラは、商用目的とみなされる可能性もあるため注意が必要です。

3. 通信状況について

(1) パソコンの普及状況

インターネットは普及しており、ほとんどの地方でプロバイダとの契約が可能です。日本のプロバイダのメールについては、使用できないケースがありますので、事務所との連絡用に、Yahoo、MSN 等のメールアドレスの作成をお願いします。なお、現在のところ、グーグル検索・ヤフー検索、LINE・フェイスブック・Twitter 等の国外の SNS、YouTube 等の国外の動画サイトは閲覧および投稿ができなくなっています。

PC、周辺機器および消耗品（インク等）は Windows、Mac 共に大部分が中国でも購入可能です。しかし中国で日本語 OS 搭載の PC はほとんど販売されていません。日本からの持参をお勧めします。なお、日本語のソフト購入は困難ですので、必要に応じ日本語のソフトを持参されることをお勧めします。

PC を持参する場合は、必ずコンピュータウィルスの対策を行なってください。中国では、コンピュータウィルスに感染し PC が動かなくなったという例が多くあります。動かなくなったときのために再インストール用の CD 等を持参してください。ウィルス対策ソフトの更新は、インターネットで決済ができるので、クレジットカードがあると便利です。

(2) 携帯電話の普及状況

中国到着後、事務所から緊急連絡用として全隊員に携帯電話（ガラケー）を貸与します。利用経費は、初回 SIM カード購入費用 50 元、通話料毎月 10 元分を事務所が負担します。それ以上の経費については隊員負担となります。

固定電話については、携帯電話の普及によりほとんどの住居に設置されていません。手続きを取れば携帯電話でも海外との通話が可能となります。

近年中国ではスマホアプリを使った支払いや列車・飛行機等のチケットの購入が主流になっていますので、事務所貸与のガラケーを使用せずご自身のスマホを使用していただいても構いません。日本で購入したスマホでもSIMフリーであればこちらでも使うことができます。到着後に中国で購入することもできます（日本語入力機能が搭載されている機種は限りがあります）。



4. 現金の持ち込み等について

（１）現金持込にかかる注意

5千米ドル相当を超える外貨（円やドル等）を持ち込む場合は、税関で申告が必要です。

（２）両替状況

銀行や大きなホテルで日本円、USドルから人民元への両替が可能です。両替レートは、空港、ホテル、銀行でほぼ変わりません。任地赴任後、銀行でUSドルと人民元を受け取ることのできる銀行口座を開設していただきます。

（３）赴任時に用意することが望ましい金額について

赴任当日に事務所から2～3ヶ月分の生活費を現金でお支払しますので、生活費の持参は不要です。ただ、こちらでの生活を立ち上げるための生活用品等の購入は、日本国内で支給されている移転料からの支出になります。日用品の購入だけの場合は日本円で2～3万円あれば十分ですが、大型家具や電化製品等の購入予定がある方は必要に応じて持参ください。

また、住居を事務所が借上げる予定の隊員の方は、デポジットは隊員の自己負担となりますので、デポジットを持参ください。デポジットに必要な金額は都市によって異なりますが、首都圏の場合は24万円程度です（デポジットは退去時に問題がなければ全額返金されます）。なお、支払いは人民元のため、円・ドルなどで持参し両替する形となります。

5. 治安状況について（JICAの安全対策については、協力隊ハンドブックを参照）

中国の治安状況は比較的良いと言えますが、日本とは異なります。スリや置き引きなどの被害も散発しており、十分な注意が必要です。深夜の一人歩きを避ける、目立つ行動をとらないなど、常に安全管理を心掛けてください。

6. 交通事情について

主要都市間は航空・鉄道・バスで結ばれており交通網は発達しています。一方、横断歩道や信号のルールが日本と異なり、車は日本と逆の右側通行です。交通事故も非常に多いため、歩行時やバス・タクシー利用時は十分注意してください。なお、当国では公共交通機関が整備されている事から隊員のバイク・車両利用は認めていません。



7. 医療事情について

北京には中日友好病院や外資系のクリニックをはじめ、高い医療水準を持つ病院が多数あります。地方都市においても基本的な医療機器は整っており、日常的な傷病であれば十分対応可能です。傷病の内容や病態を考慮し、北京での療養を指示し対応する場合があります。

各種予防接種も北京、地方都市において実施可能です。

8. 蚊帳について

中国南部の一部地域においては、少数ですがマラリア・デング熱の感染例が確認されています。

任地が中国南部の場合は、蚊帳を購入することをお勧めします。現地でも質の良いものの購入が可能ですので、特にこだわりがない限り日本から持参する必要はありません。

9. 任国での運転について

当国では、隊員の二輪車および四輪車の運転を原則不可としています。

10. お問い合わせ

任国での活動に関する質問は、以下のボランティア班共有アドレス宛にメールでお問い合わせください。

※長期隊員の方は、お問い合わせは派遣前訓練が開始してから行ってください。

※活動に関わる内容以外の質問はお控えください。

中国事務所 ボランティア班共有アドレス

jicacn-jocv@jica.go.jp



11. その他

派遣前訓練中に高めた語学のレベルを赴任時までには落とさないよう、十分復習を行ってください。

中国の現代史、日中間の歴史についてもよく学習してきてください。

JICA 中国事務所 HP (<https://www.jica.go.jp/china/index.html>)

人民網 日本語版 JICA 協力隊ページ (<http://j.people.com.cn/94473/415349/index.html>)

以上

